



KAIHO
会宝産業株式会社

会宝産業株式会社
統合報告書

2026

全方位“シンカ”

価値創造 ストーリー

PHILOSOPHY 経営理念

**会宝産業は、社員一人一人が、よろこびを表現し、
お客様に信頼と安らぎの実感を提供し続け、
自然環境との調和を計る会社です。**

—— 私の宣言 ——

- 一、私は生涯、楽しく会宝産業で働く。
- 一、私は生涯、楽しく学び続ける。
- 一、私は生涯、楽しく己に挑戦し続ける。
- 一、私は常に、家族のことを思い、安全作業に徹する。
- 一、私は自分の夢を会宝産業で実現する。
- 一、私は会宝産業を幸せの発信基地として、
「全世界」に良い影響を与える。

「経営理念」に込められた想い

人の喜びを我が喜びとする。お客様の喜びを糧に、社員一人一人が楽しく喜んで働けば、その喜びがお客様にも伝わり、お客様は安心と、信頼を寄せてくれる。この喜びの循環が、私たちが育む大自然にも影響を与え、世界の人々が平和に暮らせる調和のとれた地球環境を作るのだという創業の精神が、この理念に込められています。この礎に立って、私たちは「シンカ」し続けます。

PURPOSE パーパス

**自動車のあとしまつを通して
日本・世界の環境に貢献する**

地球に存在する天然資源を採取・加工して製品を生産する動脈産業の発展により、私たちの生活が豊かになりました。一方で、地球上には製品が消費された後にたくさんのゴミが溢れ、それらは環境破壊を招く大きな要因となっています。

人間の体の血液には、動脈と静脈が一体となって循環する仕組みが必要であるのと同じように、産業にも、製品を作り出す動脈産業と、要らなくなった物をただ捨てるのではなく、再利用・再資源化する静脈産業が存在することで、持続可能な循環型社会を創ることができます。

当社は、SDGsの12番目の目標である「つくる責任」と「つかう責任」に加え、「あとしまつの責任」という考えを大切にしています。静脈産業のパイオニアとして、世界に取り組みを広げることが会宝産業の使命であると考えています。

CORE VALUE コアバリュー

**相手(お客様)に喜んでいただいた
結果が自分たちに返ってくる
「タライの法則」**

会宝産業は「お客様の喜びを我が喜びに。相手に喜んでいただいた結果が、自分たちに返ってくる。」という利他の精神を大切にしています。これは、すべての社員がよりどころにしている行動指針であり、日々お客様と向き合う中で最も大切な心です。

この行動指針は、「自らが得をしようと思って行動した結果は、長期的な利につながるのではなく、相手に奉仕をする気持ちで行動した結果が、巡り巡って自分のためになる」という会長(創業者)の教えに基づいています。

まずは、お客様が幸せになることから考えて行動することで、自分にも幸せが訪れ、その結果、関わる人すべてを幸せにすると信じています。

社長メッセージ



代表取締役社長
近藤 高行

私たち会宝産業は、このたび統合報告書2026を発行しました。

その目的は、単に情報を整理して外部に示すことではありません。まずは社員一人ひとりに、そして社会の皆さまに対して、「私たちは何者で、何を目指し、どこへ向かおうとしているのか」を、自分たちの言葉でお伝えしたいと考えたからです。

社歴が浅く、創業期や会長の想いに直接触れる機会が少なかった社員も含め、会宝産業がこれまで何に取り組み、何を大切にしてきたのかを知ること。それは社員同士の理解を深めるだけでなく、社会や取引先、将来の仲間との「つながりのきっかけ」になると考えています。私たちの業界は、決して発信力が強いとは言えません。メーカーは学生にも広く知られていますが、リサイクルや解体という仕事は、その価値が十分に語られてきませんでした。だからこそ、メディア任せではなく、自分たちが伝えたいことを、自分たちの言葉でまとめ、発信する。その意志の表れが、この統合報告書2026です。

すべては「循環」であり、私たちはその一部である

私の中で、経営も産業も「生命体」と考えています。生まれ、活動し、役割を終えていく。しかし、それは終わりではなく、形を変えて循環し続けます。

動脈産業・静脈産業という言葉がありますが、人の身体と同じで、良いものを食べる(つくる)だけでは健全にはなりません。必ず「あとしまつ」が必要です。あえて私は、この言葉を使います。それは、モノづくりと同じだけ、あとしまつを知ってほしいからです。

今、世界は資源制約という現実の中で、綺麗事ではなく「生き残るため」にリサイクル材が必要とされています。必要なリサイクル材を安定的に確保するために、私たちに何ができるのか。私たちはその視点に立ち、動脈・静脈が一体となって循環を作り上げていく存在でありたいと考えています。

中期経営計画における4つの軸

私たちは中期経営計画において、

- プラットフォーム事業
- 国内循環事業
- 海外循環事業
- 変化に強い組織づくり

という、4つの軸を掲げています。

プラットフォーマーとしての原点は、創業者が築き上げてきた海外中古自動車、部品ビジネスにあります。日本は諸外国と比べて車を状態の良いまま早く手放す傾向があります。一方で、海外では日本の中古自動車部品に対して高い需要があります。日本では見向きもされなかった部品が、海外では必要とされる。そこに価値を見だし、多くの国々に販路を拡大してきました。

かつての自動車リサイクル業界では「綺麗で高単価」な国内販売に注力し、海外市場に着目していませんでした。そこで、当社は創業者が築いた海外の需要に応えるためのシステムを国内の同業者に展開し、当社のシステムに登録することで利益を高められるように取り組んできました。このボーダレスなプラットフォームにより、手間なく世界をターゲットにした取引をすることを可能にしています。

また、自動車リサイクルという誇り高い仕事を、グループ全体が一体となって共有し、その理解を深めることも、私たちの使命です。

海外での事業展開は、決して簡単なものではありません。すぐに利益が出るものでもありません。しかし、車や部品は世界中で必要とされ、資源は国境を越えて循環します。今後の資源循環を考える際、一国だけでなく地球規模でのリユース品・リサイクル材の流れを把握する必要があります。その未来を見据えて、私たちは今、挑戦を続けています。

経営の軸は、常に「人」

ビジネスの中でどんな戦略や戦術も、それを動かすのは「人」です。コロナ禍で外に出られない時期を、私たちはチャンスと捉え、人材教育に力を注ぎました。社員一人ひとりが、目の前のお客様に何をしたら喜んでもらえるのかを自ら考え、行動できる集団こそ、最強の組織だと信じています。

サステナビリティ経営への向き合い方

会宝産業の事業は、創業以来リユース・リサイクルの促進によって、結果としてSDGsに結びついてきました。そして近年改めて、持続可能な企業活動のあり方が求められています。

人は、自然の中で生かされています。資本主義に偏り、自分たちの都合だけを優先してきた結果、人がその自然環境に悪影響を及ぼしてきた側面があります。自然環境なくして、私たちは事業を営めません。その原点に立ち返るために、私たちは、自然・気候関連開示フレームワーク(TCFD・TNFD)を、今後極めて重要な経営課題と位置づけています。

変わらず守るものと、

2026年「全方位“シンカ”」への想い

私たちの組織は、縦割りではなく一体の会社であることを伝え、チャレンジを掲げ、そして2026年の経営方針を「全方位“シンカ”」としました。

一方向ではなく、全方位。“シンカ”には、真価・進化・新化・深化・親化という意味を込めています。これまでの取り組みをより深く磨き込み、時代に必要な新たな手法を取り込みながら、事業を本質的な価値へと結び直し、船の舳先としてこれからも挑戦し続けることで、お客様から選ばれ続ける会社へと変化して参ります。そして、この統合報告書が、皆さまとの新たな循環の始まりとなることを願っています。

会宝産業のあゆみ

創業以来57年。私たちは、静脈産業の確立を目指して絶えず挑戦を重ねてまいりました。自動車解体業から、持続可能な循環型社会を創造する企業へと舵を切った、変革の歴史です。

国内事業

1969年
有限会社近藤自動車商会設立



1998年
現在地に本社移転



1992年
会宝産業に社名変更

2005年
KRA (Kaiho Recyclers Alliance) システム開発

1969

2000

2020

2026

2007年
資本金5700万円に増資

2022年
資本金を8200万円に増資

2008年
農業事業開始



2025年
八街倉庫(千葉県)稼働



1991年
輸出事業開始

2007年
IREC (International Recycling Education Center) 設立

2014年
UAEに現地法人 KAIHO MIDDLE EAST (FZE) 設立

2020年
中古エンジン品質規格「JGES(ジャパン・グッド・エンジン・スタンダード)」策定

海外事業



2010年
中古エンジン品質規格「JRS(ジャパン・リユース・スタンダード)」策定

2019年
インドのアビシェイクグループと合併会社 Abhishek K Kaiho Private Limited 設立

2024年
ケニアに現地法人 KAIHO EAST AFRICA 設立



会宝産業の強み

会宝産業は約半世紀の社史のなかで、つねにフロンティアスピリッツを忘れず自らを進化させてきました。その強みの源泉は「船の舳先になる」という覚悟です。業界や地球環境の変化が激しい中で、一歩前に踏み出し、勇気を持って先陣を切り、持続可能な未来のために取り組みを進めてきました。未来に生きる子どもたちに美しい地球を残すために、私たちの挑戦はこれからも続きます。

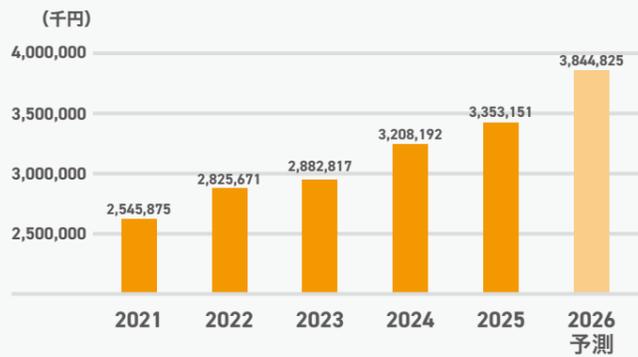
価値創造モデル

会宝産業は「自動車のあとしまつを通して日本・世界の環境に貢献する」ことを存在意義としています。自動車は人々の生活を豊かにする一方で、世界では使用済み自動車の違法廃棄や環境汚染といった地球規模の問題があります。これらの問題を解決し、地球環境をより良くしていくことが、私たちの使命です。適正な中古部品の流通を促進し、限りある資源の循環に取り組みます。さらに、その実現を支える自動車リサイクルのノウハウを国内外に普及させるとともに、その技術と知識を担う人材の育成にも力を注いでいます。これらの取り組みにより、「動脈産業」と「静脈産業」が一体となって資源を循環させる「循環産業」を創ることを目指しています。

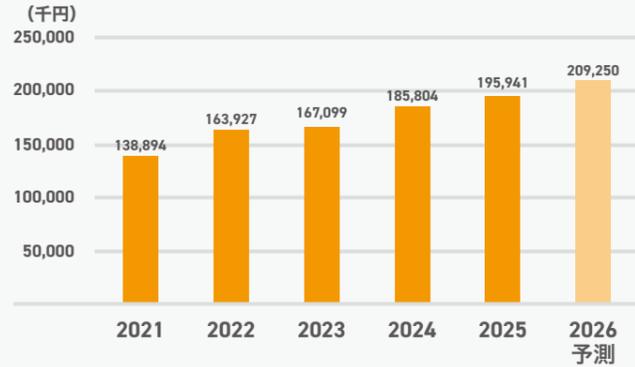
価値創造

財務ハイライト

売上高

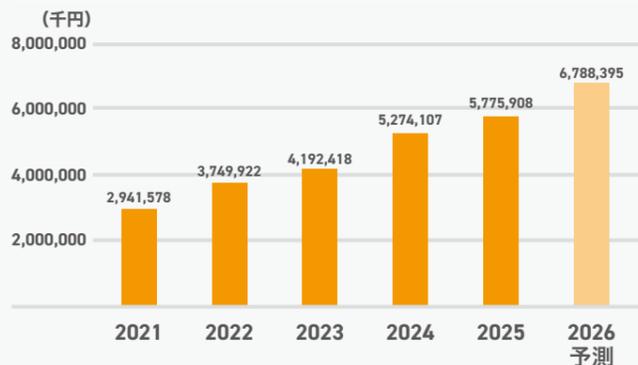


経常利益



取扱高

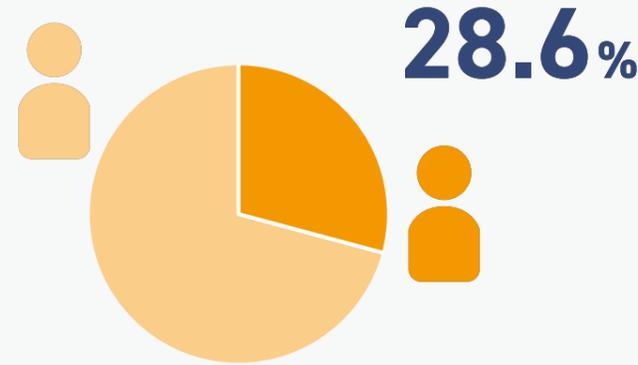
※ 売上高とオークション事業の他社出品分流通金額の合計金額



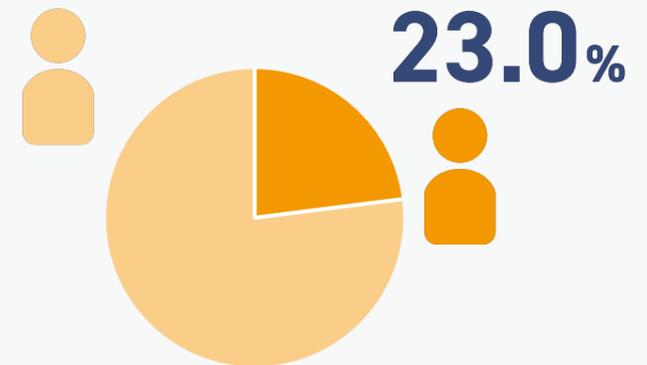
価値創造

非財務ハイライト

女性社員比率



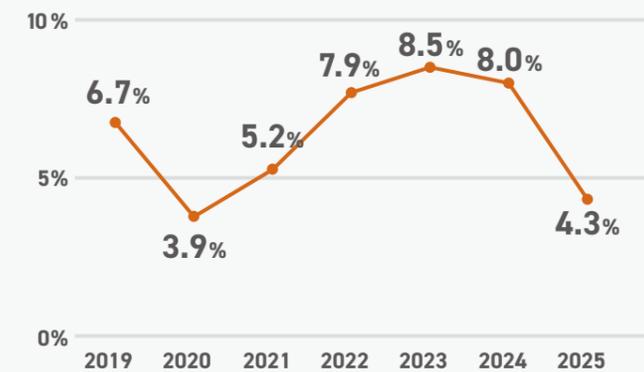
外国籍社員比率



アライアンス加盟社数



離職率



社内研修費用



海外リサイクル技術研修受講者数

